

(別記様式)

令和 6 年度 府立 朱雀 高等学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) ( 計画段階 ・ **実施段階** )

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>朱雀高校の教育目標・校訓をもとに次のように定める。</p> <p>1 生徒の期待に応える「生徒本位」の学校づくりに教職員全員体制で取り組む。</p> <p>2 生徒に学ぶ主体としての自覚を持たせ、学習に励み、進路を切り拓き、社会で生き抜く力を育てる。</p> <p>3 規範意識を育てて、自らを律し、自主活動を通して他者と協働する力を育む。</p> <p>4 心身ともに健康な生徒の育成と安心・安全な学校づくりを行う。</p> <p>5 開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域との連携を進め、理解と信頼を得る。</p> <p>6 本校全日制に学ぶ生徒が、自らに自信を持ち、明るい将来を展望し、活気のある学校生活を安心して送るための朱雀プライド計画」を積極的に推進していく。</p>	<p>成果</p> <p>(1) 「生徒たちが自らに自信と誇りを持って明るい将来を展望し、活気のある学校生活を安心して送る」ことを目指した朱雀プライド計画 (制服導入・コース制導入・部活動活性化) 第2ステージ「朱雀 Grow Up Project」を推進。「安心して生活できる学校」への変革に一定の成果をあげることができた。</p> <p>(2) 基礎基本の徹底により学習意欲の向上が見られ、4年制大学進学率が前年度比で1.3倍となり、中堅大学だけでなく国公立大学等の上位大学への合格者数が増加した。</p> <p>(3) 生徒一人一人に丁寧に向き合い、様々な発達課題や障がいのある生徒に対し、適切な支援・指導を行うことで卒業・進級へと導くことができた。</p> <p>(4) 学校行事等の実施に学校外部の人材を活用した探究・協働学習の場を確保することで生徒相互の交流促進、社会性や自主性の育成を図ることができた。</p> <p>(5) 部活動加入率は前年度同様、約70%を維持しており、前年度に引き続きボート部は全国大会に出場する等、学校の活気向上につながった。</p> <p>課題</p> <p>(1) 各学年、各コースにおいて基礎学力の定着を図る取組を引き続き充実させる。</p> <p>(2) 生徒の希望進路実現に向けた様々な取組をより充実させる。</p> <p>(3) 「朱雀プライド計画」第2ステージを推進し、地域から「高い信頼・期待を持たれる学校」へと更に進化を続ける。</p>	<p>1 活気ある学校づくり</p> <p>(1) 生徒一人一人にしっかりと向き合い、生徒の良さ・可能性を引き出す指導を進める。</p> <p>(2) 創立120周年の節目における式典や行事の参加を通じて、生徒・教職員の所属意識や誇りを高める雰囲気醸成する。</p> <p>(3) 教職員間の意思疎通や連絡体制を円滑にし、学校施設や環境の充実整備に努め、活気ある学校づくりを目指す。</p> <p>2 主体的な学びと進路実現</p> <p>(1) ICT機器の活用を推進し、生徒一人一人の能力や適性を踏まえた学習の充実を図るとともに、夢や希望の実現に向けた進路指導を充実させる。</p> <p>(2) 探究学習等の拡充により、生徒の主体的な学びを伸張する学習指導を工夫する。</p> <p>3 自律と自立</p> <p>(1) ルールやマナーの意義を考える取組を進め、規範意識を醸成するとともに、望ましい行動を育てるポジティブ行動支援を推進する。</p> <p>(2) 学習活動や特別活動を通じて、自己調整力や粘り強く物事に取り組む態度を養成する。</p> <p>(3) 部活動の活性化を推進し、学校に軸足を置いた学校生活を送ることによる充足感を向上させる。</p> <p>4 健康と安全</p> <p>(1) 健康安全教育を充実させ、自他のいのちを守る安全意識を育成する。</p> <p>(2) 生徒一人一人の個性を尊重し、人を思いやる心を育み、人権意識を育成する。</p> <p>5 地域に開かれた学校づくり</p> <p>(1) 地域と連携した取組をより積極的に推進する。</p> <p>(2) 「朱雀プライド計画」の進行により変化してきた朱雀高校の良さを伝える広報活動をより一層充実させる。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
組織・運営	学校経営計画に基づいた教育活動の実践につながる運営体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内諸会議や研修会を通じて共通理解を図り、具体的な方策により重点目標の達成に努める。</li> <li>効果的校務運営のために分掌機能の整理・充実を図るとともに分掌間の連携を図る。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度入学生教育課程の改編とそれに伴う学校体制の改善を進めた。</li> <li>教職員研修会を通じてICTを活用した様々な取組を紹介した。</li> <li>外部機関や地域と連携し、多くの体験的な学習機会を校外外に設定した。</li> <li>所定の校内会議に加え、コア会議その他特設の会議を適時開催し、学校運営に反映させた。</li> </ul>
	学校活性化と魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関や地域と積極的に連携・調整を図り、生徒の視野を広げる取り組みを実施する。</li> <li>校内の教育諸課題を整理し、学習指導要領等に基づいて適切に改善を進める。</li> </ul>	B	B		
教務部	学習への意欲を高め、生徒の学力充実・学力保障に努め、全ての生徒の進級・卒業を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>出欠や学習の状況に関するデータや情報を適宜整理し、全体で共有することで、学校生活上や学習上の課題のある生徒に対して教員集団として取り組み、原級留置や進路変更の防止に結びつける。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>出欠管理に関するデータ整理については日々入力が見えてきていることもあり、教員全体で共有する体制は整ってきている。</li> <li>ICTを活用した授業については教員各自の努力によるものに依存しており、研究授業などの実施にはいたっていない。</li> <li>1年次学力定着に向けた学習会の実施により一定の学力向上の成果が得られた。</li> <li>校務システムマニュアルの整理が進み教員間での共有も一定の成果は得られた。</li> </ul>
	指導と評価の一体化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力向上のために適切な指導計画を立てるとともに、評価の基準を見直すなど、より良い指導につながる評価の仕組みを整える。</li> </ul>	B	B		
	校務システムの適切で効果的な運用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来を見据え、システムの理解を教員全体で共有できるようにする。</li> </ul>	A	A		
生徒指導部	自主活動を通じた生徒の自立と自治能力を持つ生徒集団の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会をサポートし、生徒の自主自治の力を育成するとともに、委員会活動の活性化を図る。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>記念行事の一環としてのイメージキャラクター作成および記念式典運営をサポートできたが、企画段階から生徒が参画する工夫が必要であった</li> <li>加入率向上のみならず、部活動そのものの活性化および部活動部員の活躍できる機会を増やすことを目指したい。</li> <li>タブレット等の貴重品管理を含めた自己管理能力を高めるため、より一層様々な機会を通じて注意・啓発を行いたい。</li> <li>学習に向かう姿勢の醸成について、生徒指導面から発信できることを考え、具体化していきたい。</li> <li>担任を中心とする学年団および各授業担当者を含めた全教職員で認識を共有</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>創立120周年の節目における式典や行事の企画や運営、参加を通じて母校への所属意識を高め、愛校心の醸成に努める。</li> <li>部活動の加入率向上を目指す。また、部活動代表者会議等の指導を通してリーダーとしての能力を育てる。</li> </ul>	C			
	生徒の規範意識の醸成。また、落ち着いた学習環境のもと、安全・安心の場をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別指導の指導件数0を目指し、各分掌・教科と連携をとる。</li> <li>全校体制で身だしなみ指導等の生活指導を行うことにより、集団生活のルールを守る意識を高める。</li> <li>朝の遅刻防止指導等により、正しい生活習慣の確立に努め、落ち着いた学習環境作りには生徒指導面からの働きかけを行う。</li> </ul>	B	B		

	生命を大切にすることを育成し、実践させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通ルール遵守の啓発や交通安全についての声掛けを行う。</li> <li>授業用タブレットを含めたICT機器の活用およびSNSの使用等についてルールやマナーを考える機会を設け、遵守する態度を育成する。</li> </ul>	B	B	し、共通の行動がとれるような具体的な行動を考えたい。
進路指導部	進路を切り拓く力を伸ばし、適切な進路選択ができるよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習機会の創出に努め、学力の向上につなげる。</li> <li>高大連携事業等によって進路意識を刺激し、進路の早期明確化につなげる。</li> <li>保護者向けの情報提供に努め、進路選択をサポートする。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習強化週間の設置、スタディサポート実施前の課題や社会人基礎力養成のための課題提供などに努めた。</li> <li>大学教授による模擬授業を2回、配信による大学研究視聴機会を1回設け、進路意識への刺激に努めた。</li> <li>マネー講座の実施と三者面談時の資料提供を行ったが、生徒・保護者のニーズに沿った内容となるよう工夫改善が必要である。</li> <li>年度の最初と最後にキャリアパスポートに取り組み、自らの人生設計について考えさせる機会を設けた。</li> <li>適性検査の実施により、自己の可能性について認識を深めることができた。</li> <li>入退室や面接指導の機会を通じて、社会生活に必要な基本を指導した。</li> <li>卒業を控えた3年生に対し、厚労省の冊子を使って職業生活における心構えについて指導した。</li> </ul>
	自己と社会についての認識を深め、豊かな人生が送れるよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスポート等を活用して人生観や仕事観を深め、よりよい人生の構築につながるよう導く。</li> <li>適性の再発見や可能性の追求を通じて、自己と社会との関わりについて認識を深める。</li> </ul>	B	B	
	よりよい社会の構築を目指し、自他の人権を尊重するよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶や服装、言葉遣いの指導を通じて、社会生活に必要な基本を身につけるよう指導する。</li> <li>社会に出るにあたり、働く者としての権利と社会への貢献とを意識できるよう指導する。</li> </ul>	B	B	
保健部	健康な心と身体の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断の結果をふまえて、治療勧告や再検査が必要な生徒に対する指導を進める。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>健診結果の通知や治療勧告等はできたが、未受診者への指導については更なる工夫が必要である。</li> <li>時期を問わず教室の換気を促すとともに、「ほけんだより」で感染症予防の啓発を行った。</li> <li>健康学習は1、3年が性教育講演、2年はストレスマネジメントをテーマにグループワークを実施した。他者の立場や人権について考える機会になった。</li> <li>清掃は概ねできているが、行き届かない場所もある。トイレ使用のマナー向上やゴミ分別の一層の徹底も含め、全体の美化意識を高める工夫が必要である。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の健康状態を把握するとともに、生徒自らが身体状態を把握し、改善のための手立てを考え、基本的な生活習慣が確立できるよう促す。</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症予防の啓発および対策に努める。</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態や社会情勢を踏まえた健康学習を実施し、自らの心身を守り、他者の人権を尊重する姿勢を育む。</li> </ul>	A		
	校内美化活動の推進と環境についての意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な清掃はもちろん大掃除の機会を通じて校内美化を推進する。</li> <li>厚生委員会とも連携し、トイレの使用マナーの向上やゴミの分別の徹底を図る。また、ゴミ袋の効率的な使用について検討する。</li> </ul>	B	B	

	生徒の心の健康への理解と対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校不適応や心身に課題を持つ生徒について、早期の状況把握と情報共有に努める。また、教育相談会議を中心に、生徒の課題について検討し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、まなび生活アドバイザー等とも連携して対応する。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラーと養護教諭の連携により担任や関係教職員へのコンサルティングを円滑に進めることができた。</li> <li>課題を抱える生徒が少なくない中で、より適切な支援ができるように、学校として支援体制を考えていく必要がある。</li> </ul>
企画推進部	総合的な探究の時間の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>実社会や実生活の中から問いを立て、問題発見能力・情報活用能力を育成するとともに、視野を広げ自身の世界観を広げていく土台とする。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年「総合的な探究の時間」では大学と連携し、フィールドワーク先の開拓や発表時の講評など取り組みを充実させることができた。</li> <li>2年「総合的な探究の時間」では、ゼミ形式での実施で、希望講座の偏りなど課題はあったが、概ね生徒個々の興味・関心に近い探究活動を行うことができた。</li> <li>説明会の回数を昨年より1回減らしたが、申込者数は増加した。今年度と同回数の実施で、内容の検討を進めていきたい。</li> <li>SNSの活用や中学校訪問、塾訪問などを通して、本校の魅力を伝える方策についても検討を重ねたい。</li> <li>教科との連携の成果もあり、図書館で本を借りたことのある生徒の割合は65%（昨年度比で20%増）に、図書館授業数、生徒一人当たりの貸出冊数も増加した。さらに日常的な利用に繋げていきたい。</li> <li>委員会活動は生徒の発案を活かして新しい企画に取り組むことができた。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>外部人材等を活用しながら生徒の視野を広げる取組を充実させる。</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ形式での探究活動を新たに実施し、教員の専門性を活かしながら、生徒の関心のある分野についての深い探究活動をおこなう。</li> </ul>	B		
	計画的な広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会や中学校訪問を適切な時期に実施し広報活動をさらに充実させる。</li> <li>学校内外での様々な取組等、本校の魅力を適切に発信する。</li> </ul>	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>明確な目的意識を持つ入学者を増やすために広報の仕方を検討する。</li> </ul>	B		
	図書館教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な選書、広報活動の充実等に取り組み、生徒の興味関心を引き出す図書館活動を目指す。</li> </ul>	B	B	
<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領に則り、授業での図書館活用推進および教育活動支援を行う。</li> </ul>		B			
<ul style="list-style-type: none"> <li>図書委員会活動の活性化を図る。</li> </ul>		B			
第1学年部	基本的な生活習慣を確立し、規範意識を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>望ましい生活習慣・学習習慣を身につけることができる指導を進める。</li> </ul>	B	B	A
		<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット・携帯電話・スマートフォン等の使用マナーについて考える機会を設ける。</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>自他にとってより良い学習環境をつくろうとする意識を高める。</li> </ul>	A		

	自主的活動を通じた協調性と自己尊厳に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動やHR活動に積極的に参加し、自尊感情を育て、自ら考えて行動する習慣を身につけさせる。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットやスマートフォンの使用マナーやネットトラブルの防止については、継続して啓発に努めた。</li> <li>学校行事に積極的に取り組むことができた。また、部活動に所属している生徒が中心となり、HR活動においても絆を深めることができた。</li> </ul>	
第2学年部	自主活動を通して多面的な成長を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修旅行や学校行事等の活動を通じ、協調性や規範意識を高め社会に通じる力の育成を図る。</li> <li>自主活動を行う中で、自分の適性を把握し、希望の進路の確立とその実現を図る力を養う。</li> </ul>	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修旅行の満足度は高く、教育効果も高かった。協力して高め合う姿勢が見られた。</li> <li>授業規律は保たれているものの、自ら前向きに進路実現に向けた学習に取り組む姿勢を今以上に伸張させたい。</li> <li>様々な事由により出席状況に課題を有する生徒については、個々のケースにより関係分掌と連携した対応を継続する必要がある。</li> </ul>
第3学年部	進路目標の明確化と進路実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>面談等を通じて、生徒の希望進路を明確にし、生徒個々の進路実現に努める。</li> <li>分掌や教科と連携し、補習や模擬試験を有効に活用して進路実現を促進する。</li> </ul>	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合型入試にも適応し、四年制大学進学者数を昨年度よりも微増ながらも増やすことができた。一方、進路を決めきれない生徒も一部みられた。</li> <li>文化祭等の取り組みなど、クラスによって少し温度差が見られ、学年全体での盛り上がりにはまで至らなかったが、各自が責任感を持って自己の役割を果たすことはできた。</li> </ul>
	自尊感情の育成と人権意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主活動を通して自尊感情を育てるとともに、協調性を養い、社会人への礎を要請する。</li> </ul>	B	B		
事務部	学校施設や環境の充実に努め、活気ある学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容や方法の変化に対応できる施設設備の充実に努める。</li> <li>計画的に老朽施設設備の改修に取り組む。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校DX加速化推進事業に係るスタジオ、マルチメディアルームの整備、グラウンド夜間照明のLED化等、施設整備に努めた。</li> <li>各種支援制度について機会を捉え、周知した。</li> </ul>
	生徒の就学を支援するため、適切に対応する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種支援制度の周知を図るとともに、適切に活用できるよう努める。</li> </ul>	B	B		

学校関係者 評価委員会 による評価	<p>○朱雀高校の実践している様々な取組や魅力が外部に認知されつつある。</p> <p>○地域と連携した活動や、全日制・定時制・通信制の三課程の生徒が交流する場を増やしてはどうか。</p> <p>○学校全体が落ち着いた環境となっている一方で、生徒への個別対応が益々必要になっている現状から、学習方法や評価、生徒への接し方の視点を学び、変化させてゆくことが大切だと思う。</p>
-------------------------	--

次年度に 向けた改善の	○学校全体の落ちたいた雰囲気や学習・学校行事等に集中して取り組む雰囲気が高まる等の成果が見える。学校改革の成果と課題を整理し、さらなる発展に向け、引き続き魅力ある学校づくりに努めること。
----------------	---

方 向 性	<ul style="list-style-type: none"><li>○生徒個々の特性や学力の違いに応じて個別最適な学びを保障するための教科指導や評価方法について改善を図ること。</li><li>○生徒の自主的活動の場を多く設定し、生徒の活躍を適切に支援・指導すること。</li><li>○生徒の希望進路の実現へ向けて、3年間を見通した計画的・体系的な進路指導の充実を図ること。</li><li>○広報活動をより工夫するとともに地域・外部との連携を図ることで朱雀高校の取組や良さを積極的に発信すること。</li></ul>
-------	--